

平成20年2月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は本州の南海上を低気圧がしばしば通過したため西日本や東日本で曇りや雨または雪の日が多くなりました。中旬は冬型の気圧配置の日が多く、日本海側では雪や雨の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。下旬は日本付近を低気圧が数日周期で通過し、低気圧の通過時には全国的に雨や雪が降り、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となって日本海側の地方で雨や雪が降り、太平洋側の地方では晴れました。

月を通しての日照時間は、北日本の太平洋側、東日本・西日本の日本海側で平年並、その他の地方では平年より少なくなりました。降水量はほぼ全国的に平年より少なくなりました。月平均気温は、北日本で平年より低く、東日本は平年並、西日本は平年より高くなりました。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より4ポイント高い75%でした。ほとんどの地方で例年を上回り、特に東海、北陸、九州南部地方では例年より7ポイントから12ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全ての地方で例年を下回って、特に東北、関東甲信地方では例年より0.7℃小さく、全国平均は例年より0.6℃小さい1.9℃でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差はほとんどの地方で例年を下回って、特に中国地方では例年より0.6℃小さく、全国平均では例年より0.2℃小さい2.0℃でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の週間天気予報から】

2月12日、低気圧が日本付近を通過して（図1）西日本から北日本にかけての広い範囲で雨や雪が降り、東京地方も昼前から夕方にかけて全域で数mmの雨が降りました。週間天気予報では7日前（5日発表）から3日前（9日発表）まで全て、この日の天気を「くもり時々晴れ」と予報しました。

図2は5日（7日前）発表の予報で使用した12日21時の予想資料です。北海道の南にある低気圧から関東の東海上にかけて気圧の低い部分が広がり、降水予想域が三陸沖から関東の南海上にのびていま

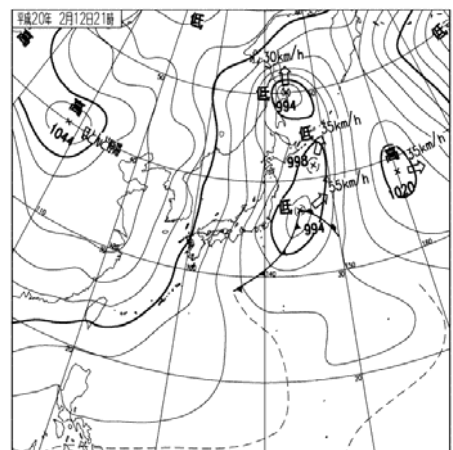


図1 平成20年2月12日21時の地上天気図

す。この気圧配置から関東の南海上にも低気圧が発生して東へ進む可能性があるとして予想しましたが、関東の南海上では陸地から離れて進み、東海上に移動した後で発達するとみて、関東地方への影響は雲が広がる程度と判断しました。

図3は9日（3日前）発表の予報で使った予想図で、5日の資料（図2）と比べて低気圧がやや発達していますが、おおまかな気圧配置に大きな変化はありません。6日前から4日前の資料でもほぼ同様の資料でしたので、7日前と同じように考えました。

実際 12 日には低気圧が予想通り本州の南海上を通過しましたが、予想より陸地の近くを進んだことと、予想より早く本州の南海上で発達を始めたため、西日本から北日本の太平洋側の広い範囲で雨や雪が降りました。

数日前の予想では、おおまかな気圧配置は概ね予想できて、低気圧の進路や発達の程度・タイミングの詳細までは正確に予想できないこともしばしばあります。このような場合には、雨や雪が降ると予想した地域や時間帯がずれてしまい、この事例のように予報と全く違う天気になってしまうこともあります。週間天気予報を利用する場合には、最新の予報で確認していただくようにお願いします。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は、低気圧が通過した後に、北からの冷たい空気を持った移動性高気圧に覆われて穏やかに晴れる日が続くことがあります。高気圧に覆われた日中は日射のために暖かく穏やかな日よりとなりますが、夜には晴れることで地表からの熱が放出しやすくなるため急速に気温が下がって翌朝の最低気温が低くなります。天気予報で夜から明け方にかけて風が弱く晴れる予報が出ている日は、夜に入ると気温が下がり朝の冷え込みが強くなりますので健康管理などに気をつけましょう。また、気温が 0℃ 近くまで下がる場合には、霜が降りるおそれがありますので、霜に弱い農作物や観葉植物などの管理には注意が必要です。

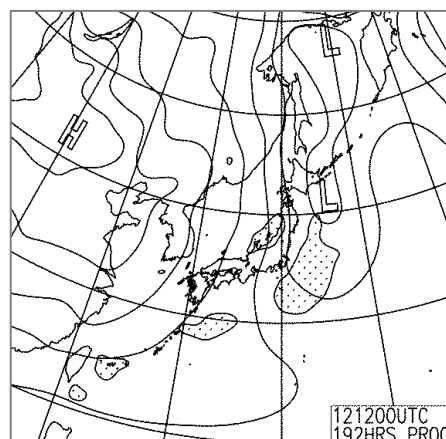


図2 平成20年2月5日（7日前）の予報で使った12日21時の予想資料：水玉模様は降水を予想した範囲

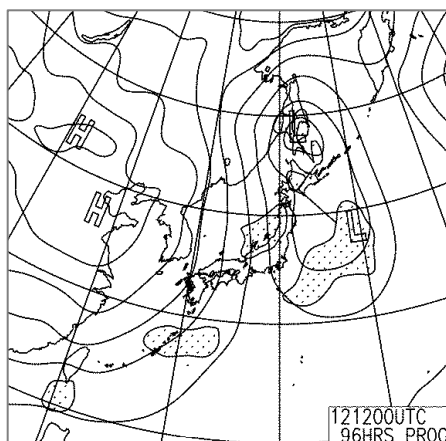


図3 平成20年2月9日（3日前）の予報で使った12日21時の予想資料：水玉模様は降水を予想した範囲